

文学館だより

平成29年 7月 1日
若山牧水記念文学館
TEL 0982 - 68 - 9511
文 貴 日 高

ひまわり
花園の花のしげみを抜き出でてゆたかに咲ける向日葵の花

「山桜の歌」 収録

ひまわり
なげきつつ日毎ながめし向日葵の今日はれがましく咲き出でにけり

若山 喜志子 作

「伊藤一彦短歌実作講座」 今年度もスタートしました

5名の新規受講者が加わり、今年度も『伊藤一彦短歌実作講座』がスタートしました。1回目は6月7日(水)、「歌づくりの魅力」と題して、伊藤先生の講演がありました。受講生はもとより、短歌愛好者など32名の聴講があり、熱心に耳を傾けました。

伊藤先生は馬場あき子さんのあとを継ぐ女性現代歌人に栗木京子さんと小島ゆかりさんを挙げられました。ご存知のとおりお二人とも牧水賞を受賞されていますね。栗木さんは馬場あき子さんの後任として今年から牧水賞選考委員に就任されました。伊藤先生は栗木さんの歌について、読者に想像させる歌を得意とし、読者に鑑賞の余地を与えると評されました。小島さんの歌も、わかる人にわかればいいという思いで詠んでいると評され、読者が歌の情景、背景を自由に想像できる楽しさ、発見の喜びが味わえる点においてはお二人の作風は相通ずるものがあるのかもしれない。



いつも熱い伊藤先生！

しにまね いきまね
死真似をして返事せぬ雪の午後 生真似をするわれかもしれず

栗木 京子

この町を愛しすぎたる人ならんバス停として今日も立ちをり

小島ゆかり

そして、歌づくりのポイントとして、伊藤先生は次の3点を挙げられました。

① 兎にも角にも、まずは五・七・五・七・七に合わせ作ってみる

- ・ 多少、字余り字足らずがあっても気にしない
- ・ ひとつのフレーズだけでもいい
- ・ いいものを作ろうと思わない
- ・ 一首できたら、二～三関連の歌ができないかと考えてみる

* 伊藤先生も馬場先生も枕元に必ず手帳をおいているそうです



受講風景

- ② 出かけるときに作ってみる
時には、歌を作る場所を変えてみる
時には、筆記用具を変えてみる

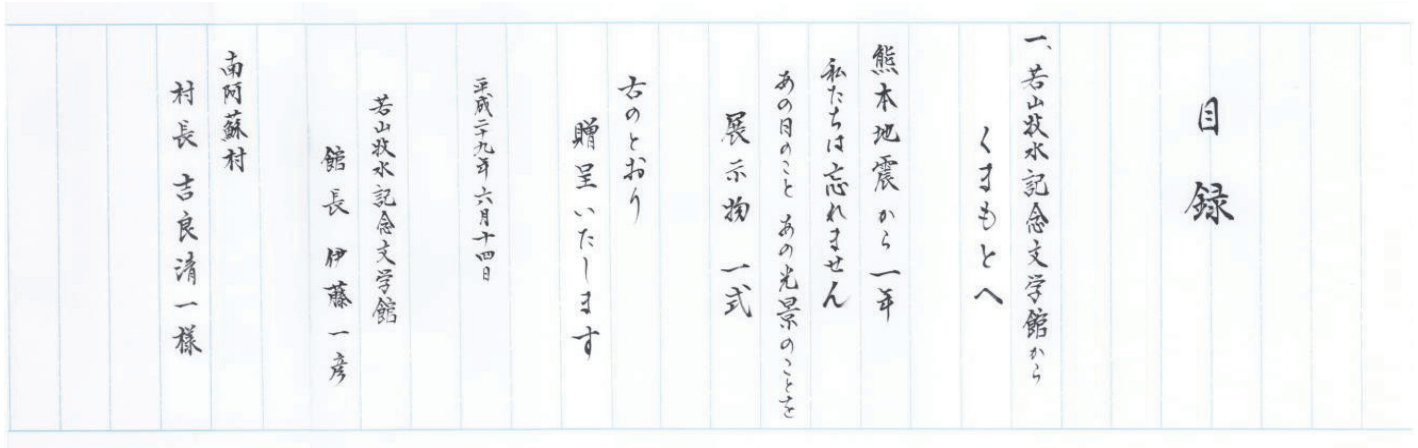
③ 歌を作る時には辞書が必要

- ・ 明解国語辞典 ・ 広辞苑
- ・ 類語辞典 ・ 歳時記
- ・ 雨のことは辞典、風のことは辞典など

* こんな辞典があることを初めて知りました

第2回から受講生が作った短歌を全員で鑑賞していきます。表現方法、情景描写等々今年も学ばせていただきます。私も毎年、今年こそ！ と思ってはいるのですが。さて、今年はどうなることやら・・・

「熊本地震から1年展」 6/14 南阿蘇村へお届けしました



『熊本地震から1年 ～私たちは忘れません あの日のこと あの光景のことを～』展
展示物贈呈式

日 時 平成 29 年 6 月 14 日（水）
場 所 南阿蘇村役場
出席者 顕彰会会長 那須 文美

文学館より 黒木事務局長 日高

文学館からくまもとへ思いを届けたいと4月に公開展示した『熊本地震から1年』展。何と現実となりました。展示物一式を南阿蘇村にお届けいたしました。昨年 30 首を超え寄せられた熊本を思う短歌と坪谷小児童の短歌を何とか形に残したいと一字一字心をこめて書かせていただきました。併せて明治から大正にかけ牧水が詠んだ地震（なみ）の歌 13 首を加え、パネル 4 枚にまとめました。

一歩ずつ前に進んでいるといっても仮設住宅住まいは変わらず、まだ水が通っていない箇所もあるといいます。私たちにはとても想像もつきません。くまもをを思い詠まれた短歌が笑顔、元気の一助になればうれしい限りです。

早速、翌日から南阿蘇役場庁舎に展示していただいたようです。その後、観光施設、小中学校、仮設住宅等巡回展示していく予定であることをご報告いただきました。

松野孝雄教育長あいさつ（抜粋）

熊本地震をテーマに詠んだわけではないのに、多くの短歌が寄せられ、涙を浮かべながら読ませていただきました。

31 文字にこんなに思いを伝えることができるのかと、改めて短歌の素晴らしさを感じました。

南阿蘇は自然に恵まれたところです。何かしら短歌に合うのではないかと考えたところでした。

